



1. チャーター便から上陸するボランティア
2. 島民とボランティアが一緒になり5つの班にわかれて作業した
3. 車道にはみ出た雑草を刈る島民
4. 道路脇の側溝にたまった落ち葉の清掃も行った
5. 日差しが強く、作業の合間には水分補給もしっかりと行った
6. 山口大学の大学生もボランティアに参加した

6月7日、柱島で一斉清掃活動が行われました。

離島地域環境美化交流促進事業として行われたこの活動には、「柱島に行こう会」のボランティア36人が参加し、島内の清掃を行いました。

参加者は5つの班に分かれて車でそれぞれの清掃場所に向かい、車道に積もった落ち葉や枝を取り除いたり、通行の妨げとなる木々の伐採を行ったりと、約3時間汗を流しました。

市内からボランティアとして

## 柱島一斉清掃活動

参加した参加者は「小さい頃に柱島によく来てお世話になっていた。こうして島の清掃などで島に恩返しができうれしい」と笑顔で話していました。

また島民は「今回の大規模な清掃活動で日頃行き届かない箇所まで整備を行うことができ、火災や緊急時などの安心にもつながった」と感謝の言葉を述べました。柱島では毎年春と秋の2回、一斉清掃を行っています。

関中山間地域振興課  
☎(29)5012

## 協力し、島の景観を守る

# 市政 PICK-UP



海岸沿いには多くのごみが流れ着くが、島民の定期的な清掃により美しい海が保たれている

# いつか世界を変える力になる

5月16日～27日まで市役所1階展示コーナーで「山口から世界へ！JICA海外協力隊パネル展」が開催されました。

パネル展ではJICAの事業説明のほか、ケニアで栄養士として活動する本市出身者を含む山口県出身の協力隊員6人が、開発途上国の国づくりや人づくりに貢献する活動の様子を紹介しました。

またパネル展最終日となる5月27日には、体験談&募集説明会が行われました。本市出身者



市出身の元協力隊員によるフィリピン派遣の体験談では、応募前の不安や悩みなど生の声が聞けた

## JICA海外協力隊パネル展 & 体験談・募集説明会

を含む2人の元隊員が、協力隊事業の説明や海外派遣に興味を持ったきっかけ、帰国後の活躍などについて話しました。

説明会に訪れた人たちは、経験者だから語れる異文化社会での相互理解の話などに熱心に耳を傾けていました。

JICA海外協力隊はこれまで98カ国に5万人以上が派遣されており、春と秋の2回募集を行っています。次回の市での説明会は9月を予定しています。  
 岡都市交流室 ☎(29)5211



パネル展ではJICAが行う協力隊員の海外派遣や途上国から1万人以上の研修員を招いていることを紹介

## 環境問題を身近に感じ、学ぶ



オオサンショウウオなどの生態系を守るために、河川の良好な水質を保つ必要がある



牛乳パックを利用した紙トンボの工作コーナーでは、カラフルに色付けしたトンボを飛ばして楽しんだ

6月4日、市役所多目的ホールなどで「岩国環境フェスタ2022」が開催されました。環境について子供から大人まで楽しみながら学び、理解を深めることを目的としたこのイベントは3年ぶりの開催となり、多くの子供連れや学生などが会場を訪れました。

会場内には「環境から考える私たちの暮らし」をテーマに、環境貢献活動に取り組む団体のブースが設けられ、錦川に生息するオオサンショウウオや瀬戸

## 岩国環境フェスタ2022

内海で捕獲したクラゲの生体展示、環境に関するパネル展のほか、廃材をリメイクした作品の制作や紙トンボ工作の体験などが行われました。また来場者には植物を生かして省エネ対策をする「緑のカーテン」のためのゴーヤと朝顔の苗がプレゼントされました。

市は環境保全への意識の醸成や、持続可能な社会の実現を目指し、今後も取り組みを進めていきます。

岡環境保全課 ☎(29)5100